

第 54 回 防災カフェ (Web) を開催しました。



よりよい災害対応とは

～シミュレーションゲームで考える～

ゲスト：笠原 恒夫 さん

(滋賀県地域防災アドバイザー)

日時：2021年1月21日(木) 18時30分～20時30分

ファシリテーター：川田 幸寛 さん

(滋賀県 知事公室 防災危機管理局 主事)

災害が起きた時、どのように考え、行動すればより良い結果が得られるのか、一人ひとりが決断していかなければならないことです。さまざまな状況への対処を求められる防災シミュレーションゲームのお話を聞き、より良い災害対応をみんなで考えました。

笠原さんは、滋賀県地域防災アドバイザーとして防災講習会を担当されています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で少ないものの平成24年から昨年度まで年間平均80回ということでした。その際に使っているゲームを4つ紹介していただきました。年度によって希望されるゲームは変化しているようで最近では、クロスロードやイメージTENが人気だそうです。ゲームがやりやすいように講習に合わせてやり方を工夫されているということでした。



ゲスト：笠原 恒夫 さん

1. 災害図上訓練 DIG (Disaster、Imagination、Game)

地図を使って防災対策を検討するもので、参加者が大きな地図を囲み、地図の上に敷いた透明シートにブロック塀や倒壊しそうな建物といった危険箇所や消防署や避難所といった災害対策にとって有利な場所など様々な情報を色マジックで書き込みます。そして、具体的に災害を想定して、どのようなことが起きるか、自主防災組織としてどのように対応するかを話し合いながら、気づいたことなど書き出してまとめていきます。

2. 避難所運営ゲーム HUG (Hinansho Unei Game)

避難所運営をする側の立場で、避難者をどう収容するか、発生する課題にどのように対処するかなどを考えます。想定 of 避難所 (例えば体育館) の縮小図と人を縦 2m 横 1.5m として同様に縮小したカードに避難者の個別事情が書いたものなどを使い、避難者それぞれの事情を踏まえてどれだけ適切に配置できるか、また、天候の変化や感染症など避難所で起こる様々な出来事への対応をグループで話し合います。

3. クロスロードゲーム

防災や災害対応時に経験する「こちらを立てればあちらが立たず」という二者選択の正解のない設問に参加者それぞれが YES・NO のカードで考えを表明し、そう判断した理由を互いに交流します。そして YES・NO それぞれの問題点に目を向け、よりよい対応を考えるものです。阪神・淡路大震災のときに対応にあたった人たちが経験したことが設問の素材になっていて、自治体職員・消防職員・自治会役員・一般市民それぞれに向けたものが用意されています。



クロスロードのカード

4. イメージ TEN (image training & exercise of neighborhood)

自主防災組織の役員を対象に大地震を想定して静岡県で考案されたものです。架空の地図・自主防災組織役員名簿、防災資機材備蓄保有数一覧表を用意します。災害発生の条件は「くじ」で決め、災害発生時、30 分後、1 時間後…24 時間後まで、発災後刻々と変わる被害情報などが課題として示され、5 名～10 名で具体的な対策を考えていきます。参加者はより具体的な自主防災組織本部の様子を時系列で疑似体験でき、連帯感が生まれ自主防災組織の災害対応マニュアル、地区防災計画づくりにつながります。

笠原さんの経験から 4 つのゲームの中で一番やりやすいのはクロスロードゲームだそうです。HUG も非常にいいゲームでだれでも体験しやすいものだということでした。イメージ TEN はかなりレベルが高く、自主防災組織がしっかり機能しているところに向いているということでした。カフェの後半で実際にクロスロードゲームをみんなで体験しました。

ゲームについて参加者から多くの質問がありました。その中から 1 つ紹介します。

問：イメージ TEN のレベルだと、本職の方と同様の体験訓練を受けていないと無理だと思いますが…。

答(笠原):イメージTENを実施しようとするとかかなり高いスキルが必要です。消防団員OB

の方が自主防災組織に入っておられるとかでない
いと、なかなかこういう訓練はできにくいと思
いますが、時間をかけていろいろな人材を集め
ていくことによって可能だと思います。

(川田):滋賀県では地域防災アドバイザー制度と
いうものを作っていますので、そういった方の
紹介もさせていただいていますので、ぜひご利
用ください。



ファシリテーター:川田 幸寛さん(右)

体験:クロスロードゲーム(一例を紹介します。)

問題:あなたは…市民です。災害時避難行動要支援者対策。市役所の福祉課に保管されていた要支
援者のリストを、新たに、平常時から自主防災組織の役員、ボランティアなどに提供してはどう
かとの意見がある。賛成する? Yes:賛成、No:反対 (一般編 2014)

No:本人の了承を得てからならいいが、一方的にやってもうまくいかない。

No:手間はかかるけれど手挙げで了解を得た方だけ別のリストを作る。

Yes:個人情報の保護をしっかりと理解してもらった上での提供が前提

Yes:要支援者がOKなら

Yes:市役所だけで対応できない。リスト記載者の同意は必要

Yes:制約はつくが、実際に有効活用してもらうためには、これを進める必要がある。

Yes:要支援者の了承を得て、防災訓練用に開示。

Yes:登録されている方は、ある程度個人情報の開示に同意されている方と思われるので、活用す
べきだ。

Yes:事前に把握しておく方が安否確認にスムーズに行動できる役員としては知っておきたい

Yes:情報漏洩時の罰則規定もセットで。

Yes:難しいですね。いざという時に助け合うためには、ご本人やその家族に了解の上、地域の少
数で管理。

Yes:町内会の役員でさえ町内のどこにどれだけの要支援者がいるかの的確につかめてない。共助の
ためにはぜひ必要なので、了解を得て公開してほしい。

※Zoomのチャットを使って交流しました。

笠原さん、川田さん、参加者のみなさん ありがとうございました。